

3-2 まとまりのある緑

1) 緑の拠点をつくる

ここでは主に、遊びやスポーツ、さまざまなレクリエーションなどの場所となり、町民の身近なところにある公園や緑地についての取り組みをまとめています。

町民のだれもが利用しやすく、それぞれが個性ある緑の拠点をつくっていきます。

7

公園緑地の適正な配置

● 公園や緑地を適正に配置・維持管理していきます。

- 街区公園・近隣公園・地区公園を計画的に配置・維持管理していきます。
- 総合公園である鈴蘭公園は、音更のまちで最初にできた公園です。まちの中の貴重な樹林を保全しながら、自然環境を生かしたレクリエーション活動の拠点として、これからも大切にまもり、育てていきます。
十勝が丘公園については、町外からの利用者にも対応したイベント開催などにより、積極的な活用を図っていきます。
- 運動公園である希望が丘運動公園と音更中央公園は、隣接する河岸段丘樹林と一体になる空間として緑化を行い、河岸段丘樹林に生息する動物への配慮も行います。
- 広域公園である十勝エコロジーパークは、十勝川河畔の水辺空間と一体となった、自然にふれあい自然を学ぶ場所として、積極的な活用を図っていきます。
- 十勝川・音更川・鈴蘭川などは、音更のまちの自然を代表する空間です。自然環境への配慮を行いながら、緑の拠点となる都市緑地として整備を進めていきます。
- 地域や都市住民との交流の場、くつろぎの場として地域活性化の拠点となる農村公園を配置します。

■ 河岸段丘樹林に生息する動物への配慮は、緑の基本計画ワークショップで参加者から提言されたものです。

- **身近な公園や緑地の再整備を重点的に行います。**

- 音更の公園緑地の量は、北海道内の他のまちとくらべて高い整備水準にあります。しかし、公園緑地の配置状況をみると偏りも見られます。
身近な公園緑地は、子どもたちの遊びやレクリエーションのための場所としてだけでなく、火災などの災害からまちをまもり地域の景観を形成するなど重要な機能を担うものです。
- 町民の生活空間の中で最も身近な緑の拠点として、街区公園や近隣公園などの再整備を重点的に行います。

8

公園緑地の魅力づくり

- **それぞれが個性にあふれる公園緑地を整備します。**

- 身近な公園緑地の計画や整備は、ワークショップなどを行い、地域に住む人たちの参加で進めます。
- 地域に住む人たちの意向やアイデアなどを取り入れて整備し、大切にされ、親しまれる公園緑地づくりをめざします。
- また、木や花を植えるなど、公園整備の一部にも地域に住む人たちが参加したり、維持管理を行政と町民が協力して行う方法についても考えていきます。

- **既存の公園緑地などのリニューアルを行います。**

- 公園施設長寿命化計画にもとづき、既存公園の延命化と再整備を計画的に進めます。
- リニューアルを行う公園緑地の計画や整備も、ワークショップなどを行い、地域に住む人たちの参加で進めます。

- **冬も楽しく、快適に利用できる公園や緑地の整備を行います。**

- 近隣公園や地区公園など、地域の拠点となる公園を一年中楽しく、快適に利用できるようにするため、施設の整備や周辺にある公共施設などとの連携方法を考えていきます。
- 冬も屋外で楽しく遊ぶことができる公園のあり方を考えるため、遊具や施設を工夫した公園づくりにつとめます。

2) 緑の拠点をまもる

ここでは主に、まちの中やまちのまわりにあり、町民の生活にうるおいや、やすらぎを与えてくれるほか、安全で快適なまちづくりに欠かせない樹木や、樹林、森林についての取り組みをまとめています。

町民の生活だけではなく、動物たちの生息の基盤ともなる大切な空間として、緑の拠点をまもっていきます。

9

まちの中の樹木・樹林の保全と活用

- まちの中の貴重な樹木や樹林を保全します。
- 保全樹木や保全樹林の指定を行います。
 - 音更川の河岸段丘樹林や農地を守る耕地防風林をはじめ、まちの中の動植物の生息やすぐれた郷土景観の保全などを目的に、貴重な樹木や樹林の保全につとめます。
 - 貴重な樹木や樹林は、保全樹木や保全樹林として指定を行います。これらは町民からの情報などをもとに選定していきます。
 - 保全樹木や保全樹林の指定のため、所有者（民有地）に対する保全・管理のための支援制度を検討します。
- 身近な緑へのふれあいの場所として、節度ある活用を行います。
 - 河岸段丘樹林や耕地防風林など、まちの中の自然環境をまもりながら、自然観察路や災害発生時の避難路などとして活用していきます。



● 環境緑地保護地区に指定されている音更神社の樹林地

● 神社境内地及び周辺の良い緑の保全と再生につとめます。

■ 河岸段丘樹林や耕地防風林の自然観察路としての活用は、緑の基本計画ワークショップで参加者から提言されたものです。

- まちのまわりの森林や耕地防風林などを保全するとともに、再生・創出を積極的に行い、住みやすい環境と十勝らしい風景をまもりまします。
- 十勝地域全体の景観づくり活動と連携し、景観の保全と創出を行います。
 - オサルシナイ丘陵の樹林地や音更川の河岸段丘樹林、耕地防風林、十勝牧場など、住みやすい環境と十勝らしい風景を守るため、関係する行政機関や所有者などと協議を進めます。
 - 音更のすぐれたビューポイント（景観がすばらしい場所）を町民から募集し、音更八景の選定を検討します。ビューポイントの周辺は、風景鑑賞のために最低限の施設づくりを行うとともに、風景を阻害する要因の除去につとめ、郷土の風景を未来に伝えていきます。
- アウトドアレクリエーション活動の空間や動物たちの大切な生息基盤として、適切な保全と節度ある活用を行います。
 - オサルシナイ林間広場や音和の森などをアウトドアレクリエーションの活動や環境学習、自然体験などの場所として活用していきます。
 - 動物たちの大切な生息基盤として、町民参加で森をつくり、育てる活動を検討します。



●十勝牧場 白樺並木